

1 単元名及び単元の目標

わくわくどきどきまちたんけん(8/12本時)

- ◎自分たちで計画を立てて、身近な地域に出かけ、様々な場所を調べたり、地域の場所や人とのかかわりを広げたりするとともに、地域に親しみをもち、人々と適切に接したり、安全に気を付けて生活したりできるようにする。



【資料1 場の設定】

2 本研究授業の提案について

見学先で「自分たちだけで見学する」ためのマナーについて、気を付けたいことを考え、考えたことをグループ毎に深めるための手だてとして、以下の二つについて提案した。

- (1) 課題を把握する場面において教師のロールプレイを取り入れた。課題把握の場面では、教師がロールプレイをして、見学の悪い見本を演じることで、「どのようなことに気を付ければよいのか」という考える視点を明確にすることができた。例えば、ロールプレイで挨拶をしない姿を見て、そのことを問題点として全員で共有したことで、「私たちのグループではしっかりと挨拶をしたい。どのような挨拶がいいかな。」と考える視点を明確にすることができた。
- (2) 課題を活用する場面において、仮想の店舗を設置して学習の場を工夫した。衝立で廊下を仕切り、そこに店員の姿を写したパネルを置いた。店舗ではグループ毎に考えたマナーを実際に試した。考えたことを行動に移す過程で、グループでの考えを一つにまとめ、共通理解しようとする姿が見られた。普段話を聞くことが苦手な児童でも、当事者意識を持って友達の話の聞こうとしていた。さらに、店舗で練習する場面では、机上で考えていただけでは足りなかったことを再考して加えたり、共通理解が不十分だったことを確認したりすることができており、自分たちの考えをさらに深めている姿が見られた。しかし、相互評価する手だてがなかったために、練習をした場で、自分達で考えたマナーが本当によいものなのかどうかを客観的に確かめる機会がなかった。ペアグループを作ってお互いによりよい点を伝え合ったり、よりよくするためにどうすればよいのかアドバイスをし合ったりするなど、自分たちの行動を振り返る手だてが必要だったと考える。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 個別支援を意識して授業を行った。発問や指示の後で全体を見渡し、グループの活動が円滑に進んでいるかどうかを把握した上で、必要に応じて個別に声掛けを行っていた。全員が仮想の店舗でグループで考えた方法を実践することができた。また、個別に支援をする際に、児童のできていないことを把握しておいた。指導過程を変更し、よいグループの見学の仕方を共有した後で、もう一度自分達のグループの見学の仕方を見直す時間を取った。それによって、自分に足りなかったことを取り入れてよりよい見学の仕方について考え、実践することができるようになっていた。
- (2) 「聞くだけの時間」を減らし、「見て考える時間」を確保して、全児童が授業に参加できるように工夫した。ロールプレイや各グループの発表では予め見る視点を示したことで、何を考えながら見ればよいのか児童に理解させることができた。しかし、板書を吟味して分かりやすくまとめることができなかつたので、聞くことが苦手な児童への支援として、発表したグループのよさをより効果的に可視化して示し、気付きを促すことができればよかった。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業を展開していきたい。

- ・ワークシートやポートフォリオで一人一人が自分の学びを振り返り、思いを膨らませてそれを伝え、板書などで教師が支援をしながらお互いのよさや違いに気付くことができる授業。